

令和3年度 学校自己評価システムシート（県立飯能高等学校）

目指す学校像	・地域に根ざし、高い志を持ち、社会に貢献できる生徒を育む学校
--------	--------------------------------

重点目標	1 ステップアップクラス編成を中心に、学力向上と進路実現を目指す 2 人間としての在り方生き方教育を進め、高い志を育成し、自己実現を目指す 3 開かれた学校として情報を発信し、地域に根ざした魅力ある学校を目指す 4 教職員の働き方改革に向けて学校全体で業務の見直しや効率化を推進する
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

学校評議員会・学校評価懇話会 書面開催 委員9名から意見等を聴取
--

学校自己評価					年度評価（2月1日現在）		
年度	目標	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	
番	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ステップアップクラス編成により生徒の多様な進路希望に応え成果を上げている。学校全体で取り組んでいる英語検定は合格者が増加するなど成果を出している。また、英検取得を目標にしている飯高受験者が多くいる。 【課題】 学習習慣の確立に向けて家庭との連携が不可欠であり、保護者の意識の変容を促す取組の検討が必要である。 新校での単位制導入を見据えて、現在実施している少人数学級編成、少人数・習熟度別授業を検証して教育体制の構築を検討する必要がある。 新校で実施する教育課程についてさらに研究を進め編成することが課題である。	学習意欲を高め、生徒の進路実現につなげる教育指導計画の検討に取り組む	①単位制導入に備えて、シラバス作成のための準備を始める。ステップアップクラス編成に代わるシステムと新校での教育課程を調査・研究していく。 ②様々な英語検定の受験を通じて英語4技能の向上を図る。 ③新校に向けて各教科や探究的な学びにおいてICTを活用した授業実践を蓄積するとともに、授業公開等を実施していく。また県教委の施策を有効活用して探究的な学びを推進する。 ④生徒の自学自習の習慣化に向けて生徒及び保護者向けのガイダンスやワークショップの充実を図る。	①シラバス作成のための調査・研究をおこなったか。また、新しいシステムと教育課程の調査・研究を進めたか。 ②英語検定等が実施され、合格者が増加したか。 ③授業公開の実施及び県教委の施策の活用は進んだか。また、その成果を積極的に発信したか。 ④家庭学習の時間は増加したか。	アンケートの結果、昨年度より進路目標と進路希望実現については生徒の評価が高かった。 ①県内の先進校視察を3回行うなど調査研究を進め、単位制移行のための新教育課程を作成し、新たなシステムについても検討した。観点別評価導入に関しては研修会を行い試行した。シラバスは令和4年度当初配布を目指して現在各教科で作成中である。 ②10月英語検定で1次合格者は、2級2名、準2級18名(1次免除者1名)、3級129名(1次免除者3名)。昨年度同時期と比較して準1級、準2級は減少したが、3級は36名増加した。また、教科担当者が指導に専念できる体制を整備した。 ③コロナ禍のため公開授業等は実施できなかったが、今年度設けたICT活用推進委員会の主催で、外部講師を迎えた研修会を開催し、教員の授業におけるICT能力のスキルアップを図った。また生涯学習推進課が主催する島根県×埼玉県高校生交流授業に参加するなど、探究活動を推進した。 ④授業アンケートの結果、家庭学習時間は昨年度並みであった。改善の必要がある。	B	・新校のシステムについては今後もさらに検討し、令和5年実施を目指す。また単位制移行にともない授業の質の向上についても課題である。 ・英語検定については次年度も上位合格者を増加させるよう対策を検討する。 ・新校開校に向けてあらゆる機会をとらえて、さらに探究的な学びの実践を推し進めていく。 ・学習習慣が確立し学習時間が増加するように、教科担当者がスタディサプリ等の効果的な活用方法を継続して検討する必要がある。
2	【現状】 遅刻者カードの導入や整容指導等の成果が数値で表れ、成果を上げている コロナ禍で様々な行事が中止となる中、ウォーク21、スポーツ大会を実施した。多くの制約があるが、各部活動が意欲的に活動を展開している。 【課題】 基本的な生活習慣をより確立させるために学校全体で粘り強く指導を継続していく必要がある。 支援や配慮が必要な生徒について、校内委員会が中心となり、外部機関と連携して組織的に取り組んでいく必要がある。 コロナ禍にあって安全安心な学校行事の在り方を検討していく必要がある。	生徒の自己肯定感を高める取り組みの充実を図る	①コロナ禍においても安全安心に配慮しながら、部活動及び学校行事の充実を図っていく。 ②学校全体できめ細やかな面談等を行い、生徒の実態把握に努める。また、必要な生徒には校内委員会を中心に対応して、関係機関と連携して支援に繋げていく。 ③遅刻及び整容指導を組織的・統一的に継続して行い、基本的な生活習慣の更なる確立に繋げていく。	①部活動及び各種学校行事を実施し、生徒の満足度は高かったか。 ②組織的にすすめ、他機関と連携したか。 ③遅刻者の状況は改善されたか。	教育場面のあらゆる場面で丁寧な指導・支援を行った。 ①コロナ対策を講じながら部活動を実施。体育祭は種目や応援方法を工夫して6月実施。文化祭は中止であったが代替行事「すくふえす」を実施。ウォーク21は11月実施。満足度については保護者アンケートの結果「満足」が87%を越えていた。 ②7月に就職模擬面接会を実施。関係機関の協力を頂いた。10月に予定していた進学模擬面接会は中止。年間を通して個別面談の機会をつくり生徒の実態把握に努めている。SCは12名、SSWでは9名の生徒が活用する傍ら、さらに必要な生徒には関係機関とのケース会を開催して支援に繋げた。 ③今年度1月末までの遅刻者数は、前年度比38.1%減少した。	A	・遅刻者のさらなる減少等、基本的な生活習慣の確立に関する指導はこれから継続しておく必要がある。 ・支援の必要な生徒に関しては、これからも外部機関とも連携して組織的に継続して取り組んでいく。
3	【現状】 ホームページのリニューアルや更新増により成果が出てきている。 飯能市役所及び商工会議所と連携して地元の観光資源及び産業資源等を活用した授業について検討を進めている。 コロナ禍の制約がある中で学校説明会を工夫して実施した。 【課題】 飯能市及び商工会議所等と連絡を強化し、協働した「探究的な学び」の具現化を図り、実践していく必要がある。 新校開校を見据え、新校に係る情報を外部に積極的に発信していく必要がある。	地域と連携して学校の魅力発信推進に取り組む	①飯能市及び商工会議所等と連携した探究的な学びの実践事例を増やしていく。 ②学校説明会等の更なる工夫改善を通して中学生及び保護者をはじめ、関係者への情報提供を積極的に展開する。 ③ホームページの適宜更新をはじめ、新校に関する情報をあらゆる機会を通して積極的に発信していく。	①地域と協働した探究的な学びの実践はすすんだか。 ②入試の倍率が1.10倍以上となったか。 ③ホームページの更新回数が前年度に比べて増加したか。	地域資源の活用を推し進め、多様な機会をとらえて本校の取組についての情報を発信した。 ①飯能市観光エコツアーリズム推進課、商工会議所等から様々な情報をいただき、2学年総探の授業において地域課題について取り組んだ。 ②学校説明会は7、8月市民会館にて実施。校内でも10・11・1月開催。このうち10月は午前・午後の二部構成。12月はミニ説明会を計4回開催。2月は個別相談会実施。教員による中学校訪問実施。 ③部活動、学年、教科等がこまめにホームページを更新できる体制が整備された。「日誌」の更新のみ見ても昨年度2月までが44回だったのに対して今年度は62回と増加しており、内容的にも充実した。また、保護者あて通知を生徒に配布するときはデータをつけて一斉メールで保護者にも送っている。	B	・「探究的な学び」をさらに推し進めるために飯能市や商工会議所等と連携を強化していく。 ・新校開校を見据え、さらに新校に係る情報をあらゆる手段を使って外部に対し積極的に発信していく必要がある。
4	【現状】 通常業務、感染症対応及び新校に向けての準備等が重なり、業務量が増加し、多忙化に拍車がかかっている。 昨年度校務分掌の再編成をおこない、業務の集中の是正を図っている。 【課題】 分掌の再編によって業務の是正がされたか、組織の人数が適切であるか検証する必要がある。	各分掌等で業務の洗い出し及び見直しを進める	①各分掌で業務の進捗状況や業務内容を確認するとともに、業務負担の軽減に向けての取組を検討する。 ②分掌再編による業務負担の軽減について検証を継続する。 ③マークシートリーダー等ICT化を進め、採点業務等の軽減化を図る。	①各分掌で検証し、改善を進めたか。 ②継続して検証したか。 ③ICT化によって業務を軽減したか。	組織で校務負担軽減と効率化のための方策を検討した。 ①各分掌で業務負担軽減のための方策を検討したが、組織内の動きだけでは不十分であった。 ②昨年度行われた分掌再編成を検討し、さらに能率よく活動するために分掌と委員会を再編した。 ③業務負担軽減のため新校開校を見据え、ICTを有効活用するための研修会を実施した。	B	・校務の負担軽減と効率化についてはさらに推進していく必要がある。教員一人ひとりの多忙感の解消は学校全体でICTの活用等様々な取り組みを行っていく。

学校関係者評価
実施日令和4年3月18日(書面開催)
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> 英語教育に力を入れ、合格者数などその成果が結果として表れているのは素晴らしい。受験への積極的な取組は周知されつつあり、学校のPRにつながる。また生徒が主体的に学びかけになり、やる気向上にも貢献しているようだ。 学力向上と授業の質の向上とは相関関係にある。さらに研究授業や研修会で研鑽して欲しい。 探究的な学びで公開授業を行うのは画期的である。継続的に取組を。 ステップアップクラス編成は多様化する進路に向けて効果的だと思う。 コロナ禍で多様な学習の推進に制限があったと思うが、単位制導入に向けてのシラバス作成や学習プログラムの検討など新校開設に向けての準備が進んでいるのを感じる。 高大連携の実施と成果についてもシートにもっと示してほしいのではないか。 新校準備による仕事量の増加とコロナ禍、働き方改革とのはざままで組織をあげて取り組んでいることに敬服する。
<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者カードの導入や全校で統一された整容指導は遅刻者の減少など成果として出ている。生徒が「居がい」を持つ学校になって欲しい。 学級単位や部活動で基本的な生活習慣をきめ細かくケアしている姿勢が感じられる。最近の飯能高生は服装や態度など普段の生活指導が行き届いているように見える。 コロナ禍により文化祭などの学校行事が中止もしくは縮小されたのは残念だったが、体育祭や「すくふえす」等で生徒の主体性を伸ばす取り組みが図られている。今後の不透明な状況下で新しい生活様式に沿った新たな学校行事が構築され成果が出ることを期待している。 コロナ禍でも学校行事や部活動を様々な工夫や改善で乗り越えていく姿は有難い。
<ul style="list-style-type: none"> 出前授業等は中学生にとり有意義であり、生徒募集につながる。引き続き力を入れるべきである。 単位制導入や教育方針の特色など新校関係の情報を段階的に示していく工夫が欲しい。あらゆる機会に適時情報発信をするべきである。 地域と協働した取り組みは、地域を支える人材育成にもつながる。高く評価されるべき事柄である。 HPの更新数と内容は評価できる。受験生の参考になると思う。新校の情報をさらに発信して、内容がより充実することを期待する。 卒業生に対して母校への思いを強く持つてもらおうための情報発信をお願いしたい。
<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革は難しい課題であるが、ICTの活用、教職員一人ひとりの自覚、校務の再編等で負担の軽減を推し進めて欲しい。また先進校や先進都市の取組も導入すべきである。 適正な業務の分掌や見直しには、職員の意識の共有が重要である。また「改革」の名のもとに業務負担が増し生徒と向き合う時間が減少する。従来の業務に加え新校の準備等日々多忙かと思うが今後の取組と成果を期待する。

